

2024_0811「森影のかんむり座（天体写真）」日々の理科 3657号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

「夏の星座」というのは、6～8月の時期の20～22時頃に、南中前後または天頂付近に位置し、観察しやすい星座を指します。しかし夏でも真夜中になれば、秋の星座（たとえばペガサス座）が昇ってきますし、明け方の東の空には冬の星座（たとえばオリオン座）も昇ってきます。

夏の星座として有名なのは、さそり座、こと座、わし座、はくちょう座の4座でしょう。それぞれアンタレス、ベガ（織姫）、アルタイル（彦星）、デネブという一等星を有し、東京都心でも肉眼で観察可能です。一等星を持たない「いて座」も夏の星座ですが、「南斗六星」を形づくり、天の川の中でも最も明るい「銀河の中心部」の方向にあるので、華やかな星座です。

そんな目立つ、華やかな星座の陰で、忘れてはいけないのが「かんむり座（冠座）」です。大きさはわずか 179dig^2 （平方度）しかなく、全天88星座の中でも73位という、非常に小さな星座です。加えて一等星もないのですが、「お椀」のような形の小さな星の並びは非常に美しく、「夜空の宝石」とも例えられます。写真のほぼ中央に、少し右に傾いて写っているのが「かんむり座」です。空の暗い場所なら、肉眼でも見えますが、是非双眼鏡での観望をお勧めします。

(2024年7月下旬／長野県小諸市)

